

「AI設計ファージ」 ヒト初投与の実態：報道の検証と技術・知財の位置づけ

事実検証：報道の見出しと技術的実態の比較



「世界初のAI設計ウイルス投与」 報道

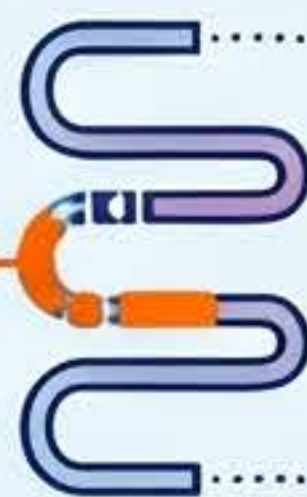
「世界初」は「生成AIが設計した配列を含むファージのヒト投与」に限定される

全ゲノム創出 (de novo) ではなく既存ファージ (T7) の尾繊維部分改変



既存ファージ (T7)

受容体結合タンパク質 (gp17) のみを改変



ゲノムモデルOmnii-1

治療効果や安全性は未証明であり、臨床転帰は非公開

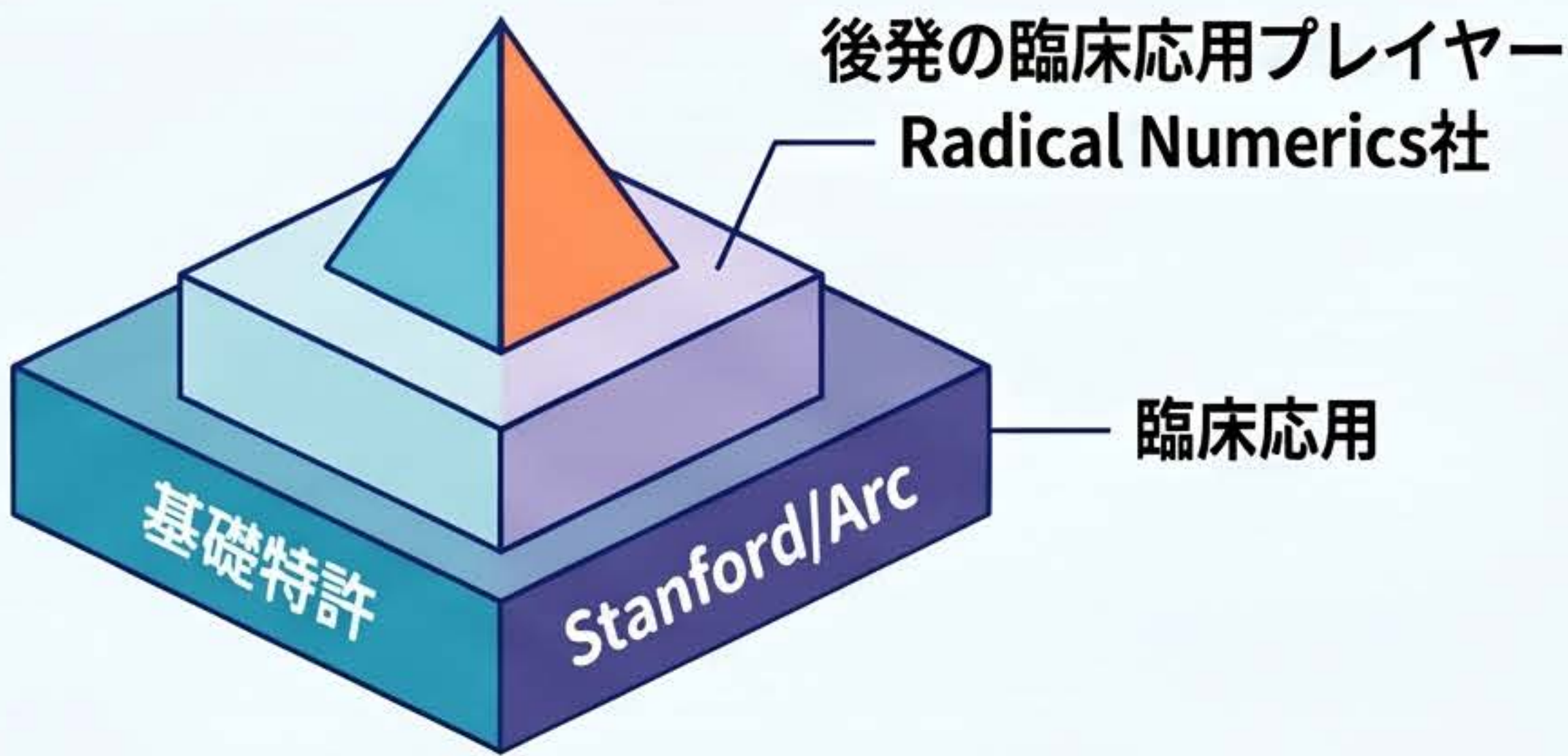
人道的使用 (コンパッションート・ユース) 下の1例であり未査読論文。

「世界初」の範囲の違い

	2019年	2026年8月	2026年10月
海外研究チーム (Dedrick等)	Stanford / Arc Institute	Stanford / Arc Institute	Radical Numerics社
遺伝子改変ファージのヒト初適用	AIによる完全ファージ全ゲノム設計	AIによる完全ファージ全ゲノム設計	AI設計配列を含むファージのヒト初投与
ゲノム工学改変 (AI不使用)	Evoモデルによるde novo生成(インビトロ)	Evoモデルによるde novo生成(インビトロ)	Omnii-1による既存T7の尾繊維改変

知的財産および規制上の位置づけ

中核となる生成ゲノム設計特許は学術機関 (Stanford/Arc) 側が保持



USPTOの審査基準は従来の「着想 (conception)」基準に一本化

